平成27年(2015年)4月~7月 行事予定

4月2日(金)~6月7日(日) 高野山開創1200年慶讃記念特別開帳

「壷阪寺二大塔同時開扉」

重要文化財三重塔開扉(秘仏大日如来像御開帳)

多宝塔開扉(秘仏大日如来像御開帳)

高野山開創1200年を慶讃して、史上初めて壷阪寺二大塔を同時開扉。併せて本堂において、 秘仏子島荒神像をご開帳し、真言宗ゆかりの御仏像をご参拝頂きます。

4月18日

観音ご縁日

●5月

5月18日

観音ご縁日(眼病封じ祈願会)

※6月、7月は、紫陽花など季節の花を楽しみにおいでください。

紅茶募金



ティーバック(10袋入) 500円

私たちが取り扱っているインドpremiar社の紅茶は去年オバマ大統領がインド を訪問した際に、モディ首相がプレゼントした会社の紅茶です。厳選した茶葉で作 られており、香りが特徴です。大量購入など、ご相談下さい。

◇ミックス◇(ダージリン、アールグレイ、マンゴーのセット) 残りわずか!! ◇マンゴー◇インドの完熟マンゴーの実が入った紅茶。甘い香りに包まれます ○お申込み方法○

郵便振替用紙に「紅茶」(ミックスかマンゴー)×口数+100円(送料)=金額を明記。 【記入例】「紅茶|ミックス×2口+100円=1.100円

郵便振替口座:00980-9-116927

加入者名:(一財)アジア・アフリカ国際奉仕財団

編集後記

ホームページ

いつもつぼさか壷心会会報をご愛読頂きありがとうございます。今年度も広報委員一同、会報の制作に努めて参り ますので、よろしくお願い致します。

さて、この4月に介護報酬の改定がありました。壷阪寺聚徳会におきましても、介護保険下での運営を行っている 事業が多数あります。簡単に言うと、収入の大幅減になる改定である為、今後の施設運営にはかなりの影響が出ると 思われます。ただ、我々はサービスの質を落とすことなく、更により良いサービスを提供できると強い決意を持って、 新年度を迎えました。

引き続き、皆様方にはご指導・ご鞭撻をお願いさせて頂き、新年度のご挨拶とさせて頂きます。(鳥越)

発行・編集/お問合せ 南法華寺福祉事業後援会 つぼさか壷心会

〒635-0102 奈良県高市郡高取町壷阪3 電話:0744-52-2016 FAX:0744-52-3835

壷阪寺 http://tsubosaka1300.or.jp/

(一財)アジア・アフリカ国際奉仕財団 http://www.aivjapan.org

つぼさか壷心会/会報96号 2015年4月発行

つぼさか壷心会96号







壷阪寺天竺結縁 50 周年記念コンサートにて

皆様のお力を頂戴し、インド・アグラ・ロパ・ムドラ学校内にて、帝阪寺天竺結縁50周年記念コンサートを無事に執り行う ことができました。ありがとうございました。

結縁50年。先代住職が、ヨーロッパの福祉事業を視察に行く際に、商社の方から、インドで始まるハンセン病患者救済事 業の事を紹介され、それに興味を持った先代が事業責任者である宮崎松記先生に出会い、その導きにより事業に参画したの がご縁の始まりでした。人と人との不思議な巡り合いによって始まったインドとの交流事業、その途上には、大きな観音石 像をご将来するという壮大な事業も完遂されるなど、ご縁は益々深まっていきました。昭和47年に宮崎先生、同63年に先 代住職が亡くなりましたが、先師たちがインドの大地にまいた日印の交流の種は着実に育ち、大きな実となり、その実の中 には新たな事業を興すようにもなった実もあります。

50年の間に、日印を取り巻く社会情勢も変わり、半世紀前のインドは米ソの東西冷戦の中で、第三世界の一つの旗頭とし ての外交路線を貫いていました。その中にあっても日印のご縁は佛の導きにより続いておりました。そのお蔭で壷阪寺のご 縁も始まったと思います。その後、ソ連の崩壊、湾岸戦争など大事件が続き、インドの経済も自由化にその舵を切りだしまし た。皆さんもご承知のような新しいIT産業も勃興し、BRICs(ブラジル・ロシア・中国・インド)と、これからの世界経済の一 翼を担う国にも遇せられるようにもなってきました。

インドの外見は、この50年で様変わりしてきましたが、国内で活動していますと、外見の変化とは程遠いものがあるよう に思います。インドの社会を乱暴にも一言で表すならば、「厳しい」。子どもにも、老人にも、成人にも、社会的なルールも未整 備であり、社会の基盤である教育、保健に関するインフラも未整備のように思います。その中で、12億人以上の民が、生活す るわけですから、インドの自助だけでは難しいと思われています。隣国パキスタン、その隣がアフガニスタンを控えている が故に、軍事関係の予算も多額であり、民事に使える国家予算も潤沢ではないようです。社会の安定することにより、治安も よくなり、住みよくなると思いますが、その道程はこれからも厳しいでしょう。

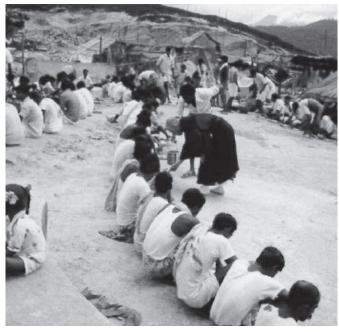
このインドと結縁して50年、先代は常に、インドの草の根となって活動しているヨーロッパの奉仕団体のことを話して いました。インドに溶け込み、インドの人の日常になるように社会活動を展開していると、常々感心しながら話していたこ とが思い出されます。50年は長い、しかし、人の一生に比べれば、短い、まだ、壷阪の社会事業はインドの日常になりきれて いないかもしれないと自問しながら、精進していきたいと思います。

壷阪寺住職 常盤 勝範

つぼさか壷心会 つぼさか壷心会

A I V だ よ り (一財)アジア・アフリカ国際奉仕財団 Asia Africa International Voluntary Foundation

壷阪寺インド支援50周年の歩み



日印政府協定によって始められたハンセン病患者救済事業に 壷阪寺は積極的に参加させて頂きました。職員をボランティア 派遣したり、写経勧進等で浄財を集めたりしました。

インド・アグラで行われる救済事業は酷暑の中厳しいもので した。従事する医師、看護師等は 1 日 2000 人の患者を診察 したと言われています。日本食のないインドにトランク一杯日 本食を詰めて、彼らの慰労の為、先代住職は渡印したこともあ りました。慰労だけでなく、様々なお手伝いをさせて頂く間に 多くのインドの方々とご縁を結ぶことができました。

ハンセン病患者救済事業がひと段落を迎え、事業がインド政 府に移管された後、石彫事業が始められました。インドで結縁 した様々な人々の協力を頂きながら始められました。現在もそ のご縁を大切にしながら、教育支援や現地 NGO の支援を行っ ています。

石工たちに食事を配る先代住職	
年代	出来事
1965年 (昭和 40年)	当時のネルー首相が日本政府とともにインド、アグラにハンセン病療養所(JALMA)を設立。
1977年 (昭和52年)	「ロパ・ムドラ学校」設立の支援 JALMA 敷地内でインド初代院長デシカン夫人が青空教室を行っており、1980年より校舎建設。 奨学金、教材寄付、放課後補習授業の支援を行う。
1983年(昭和58年)	インドより「大観音石像」をご将来する。
1987年 (昭和62年)	インド中央部にて「壷阪寺救ハンセン奉仕財団」設立。 菊池恵楓園の入居者であった元患者の遺言による寄付をもとに、インドでのハンセン病救済のための団体を設立。女性患者や家族に患者を持つ女子の為の入居施設や医療従事者を育成するための奨学金事業を行う。現在ハンセン病患者の減少のため事業は終了。
1991年 (平成3年)	インド人画家カーマット氏と共に仏伝図等の仏画制作事業開始。
1995年 (平成7年)	「ソーシャルサービスソサエティ(SSS)」設立。南インドにて、ロパ・ムドラ学校の元校長とともに奨学金事業や現地団体と連携した障がい者、女性、貧困層の支援を開始。
2004年 (平成 16年)	「サンプルナ」設立。SSS の事業のうち、バンガロールでの活動を担う団体として設立。SSS 事業は終了する。
2015年(平成27年)	インド支援 50 周年を迎える。

壷阪寺天竺結縁50周年記念コンサート



低学年の生徒による歌と踊り



生徒も積極的に参加

去る2014年12月26日、ロパ・ムドラ学校において壷 阪寺インド支援50周年のコンサートを行いました。コン サートには、生徒の他に学校関係者など学校運営に携わっ た方が招待されました。

コンサート前には、学校の設立に尽力された故常盤勝憲 師の慰霊碑の前で写経と散華を奉納しました。

コンサートはロパ・ムドラ学校の生徒による踊りや歌の 披露からはじまりました。「WELCOME(ようこそ!)」と いう看板を持った低学年の生徒の踊りのあと、高学年の生 徒による舞踊や歌が披露されました。そして、日本から招 待されたNPO法人音楽の森理事長荒井敦子先生や「まつ ぼっくり少年少女合唱団」の生徒4名、そしてピアニストの 宮川真由美さんによるコンサートが行われました。

最初は座って見ていた生徒たちでしたが、「剣の舞」のピ アノ演奏になると聞いたことのないメロディと素早い手 の動きに驚き「どんな風にピアノを弾いてるんだろう?」 と立ち上がって見る生徒が出てきました。

その後、合唱団の生徒がヒンディ語の自己紹介と歌の披 露を行いました。ロパ・ムドラ学校の子どもたちも理解し て、一緒に歌ったり、身ぶり手ぶりをするなどコミュニ ケーションを取りながらコンサートを楽しみました。特に 「幸せなら手をたたこう」は壷阪寺がインド支援を始めた



写経と散華を奉納ました

頃、よく歌っていた歌だったため、ヒンディ語に訳しても らい披露しました。歌を通じて、このコンサートの意義や 当時のことを少しでも理解してもらえたのではないかと 考えています。一時的に支援することは出来ても、支援を 続けるという事は容易ではありません。今まで50年に渡 り支援できたのは、支援いただいた皆様のご理解とご協力 のおかげだと思っています。

これからもインドの方々の暮らしを向上にお手伝いで きたらと考えています。

今回インドに行ったまつぼっくり少年少女合唱団のメ ンバーから、感想を頂きました。

A I V だ よ り

まっぽっくり少年少女合唱団メンバーの感想



奈良県立奈良高等学校 二年 鈴木 泰葉さん

私は壷阪寺さんの御支援で再びインドに行く機会をいただきました。今回の一番の目的は「インドまつぼっくり少年少女合唱団」の設立。前日には私達のコンサートも予定され、上手く歌えるか不安でした。でも、学校のみんなが「ヤスハ!」と何度も呼んでくれて、覚えてもらっていた嬉しさで胸がいっぱ

いになりました。コンサート前に披露された学校の生徒の歌と踊り。みんなの一生懸命な姿から歓迎の気持ちが伝わってきました。「私達もみんなに〝歌の力〟を届けたい」と強く思い、感謝の気持ちを持って思い切り歌うことができたと思います。とびきりの笑顔があちこちに見られ、改めて〝歌の力〟の素晴らしさを感じました。翌日、みんなが「ダンニャワード」と言ってプレゼントしてくれたのは、手書きのカードと刺繍入りのハンカチ。その温かい心に感動し、「相手の気持ちを思っての行動は人の心を大きく打つ」ということを学び、「私も相手を幸せな気持ちにできるような人になりたい」と思いました。また、今回特に印象に残ったのはインド人ガイド二人の姿勢です。インドの教育、文化、課題。様々な説明にはいつも母国を誇りに思う心が溢れていました。私が日本について説明を求められても、今はまだ自分の思いを上手く伝える自信がありません。もっと勉強して、自分の言葉で母国・日本を語れるようになりたいです。

私はインドが大好きだけれど、それはインドに行ってから思うようになったことです。友人がインドと聞いて挙げるのは象や人口、カレー。インドはそれだけじゃない、インドの本当の姿を知ってほしい、そう思います。様々な国の歴史に敬意を払い、それぞれの国の現状を知り、世界の未来を考えていく。自分の思いを人々に伝え、国のために力を尽くす仕事に就きたいと強く思うようになりました。私の出発点、インド。二回のチャンスに感謝してこれからも邁進していきたいです。



奈良県立畝傍高等学校 一年 松本 有貴さん

日本から約九時間のフライトで着いたインドに初めは少し戸惑っていました。なぜなら初めての 海外、水の心配、次の日に控えたロパ・ムドラ学校でのコンサートなど緊張や不安な気持ちでいっぱい だったからです。

しかし、そんな気持ちは学校の子ども達に会って一瞬でなくなりました。以前から話は聞いていましたが、実際に会ってみると本当に目がキラキラ輝いて手を振ると一生懸命振り返してくれる姿が印象的でした。コンサートでは一人ずつヒンディ語の自己紹介がありました。緊張でセリフが飛んでしまった為日本語で五歳からバレエを習っていて踊ることが大好き!という内容を言って、お詫びにそのバレエを踊りました。コンサート後に数人の少女たちが私のところに来て、

「もう一回踊って!ベレダンス!オンリーユー!」

と言ってくれたのはそれまで失敗してしまったという気持ちも子供たちの純粋な優しさでパッと明るくしてくれました。

また、コンサートの曲の中で最も盛り上がった曲は、「幸せなら手をたたこう」でした。この曲は日本から通訳の方にヒンディ語になおしていただき歌ったので、子ども達がすぐにヒンディ語の歌詞を覚えてくれてコンサート後に一緒に歌うことができました。その時、互いに言葉は通じなくても一緒に歌えたことは本当にすごいことでインドに来なければこんな感動は味わえなかったのだと思いました。

私は今回インドへ行かせていただいて、直接交流した子ども達から生きている!!という強いパワーをもらいました。また、何事にも積極的な姿勢や一瞬一瞬を大切にしている姿から学んで、今の生活を当たり前だとおもわず感謝する心を持って一生懸命に取り組んでいこうと思います

3



奈良県立登美ヶ丘高校 一年 廣瀬 莉子さん

今回壷阪寺さんのご支援で私は初めてインドに行き、コンサートをさせていただきました。インドに行くまで楽しみな気持ちもあり不安な気持ちもありましたが、ロパ小学校の子供たちとすぐ仲良くなれて安心しました。

私たちが歌う前、子供たちの歌やダンスに感動し、私たちも楽しく元気になるような歌を届けようと一生懸命歌い、コンサートは大成功でした。

そして今回の一番の目的は、インドにまつぼっくりを設立するということでした。だからコンサートの翌日にはオーディションがあり、私たちも審査に加わりました。審査は思っていたより非常に難しく悩みましたが、オーディションを受けている子供たちは足踏みをしながら歌ったりしてみんな一生懸命で、とても素晴らしかったです。

私が自己紹介でカバディのことを言ったら、子供たちが「カバディ!!カバディ!!」と言って一緒に遊んでくれました。その時の子供たちのきらきらした目とその積極性に、心を打たれました。初めて会ったにも関わらず、快く私たちを歓迎してくれました。 私はすぐ友達に「またね」と言います。日本人は、まだある、また次の機会があると思いがちです。

しかしインドの子供たちは、今を一生懸命生きようという感じがしました。私たちがインドのロパ小学校へ来ることは、もうないと思います。インドの子供たちは、次の機会がないことを知っていたのかもしれません。今この時間を必死で楽しもうと、そんな感じがしました。

私の将来の夢は、看護師になることです。日本より貧しい国はたくさんあるので、その国の医師の手助けをする仕事もしたいです。インドの子供たちと一緒に遊んだかけがえのない時間をわすれずに、夢に向かって今できることを一生懸命したいと思います。

奈良県立高円高等学校 一年 杉中 陽菜さん

私は初めてのインドに行き三日間滞在してたくさんのことが分かり学ぶことができました。まず小 学校では歴史のことを教えていただきました。

昔、インドのネルー首相が日本に助けを求めた時、宮崎松記先生が行かれました。ハンセン病の患者さんたちを一日に二千人のお世話をボランティアの方々とされていました。けれど宮崎先生は1972年6月4日、ニューデリー近郊にて日航機事故で亡くなられました。ハンセン病の患者さんたちは宮崎先生のためにお墓をつくり「Dr.宮崎アマール(永遠)」と言って別れを惜しんだそうです。そのおかげで私たちもインドに来ることができたことを知りました。

コンサートではロパ小学校の子どもたちが私たちのために歓迎の歌と踊りを披露してくれました。歌は十人足らずの子どもたちでタブラという打楽器とキーボードで歌ってくれました。踊りは「ダンリア」という、七人で一人ずつ二本の棒を持って踊るインド独特のものです。その心のこもった歌と踊りはとても私たち四人にとって忘れられないものです。

また子どもたちの舞台のあと私たちのコンサートでは、最初から最後まで興味津々で、男の子たちの後ろに座っていた女の子たちは全員が立ち上がって手をたたきながら笑顔いっぱいで知らない歌まで口ずさもうとして一生懸命聞いてくれました。子どもたちが参加して遊びながら歌った「インドのわらべうた」やヒンディ語に訳していただいて歌った「幸せなら手をたたこう」ではとても楽しく元気な様子が見れたので、歌っていた私たちもたくさんの元気をもらいました。

コンサートのあともう一度歌って遊んだインドのわらべうたでは、私は子どもたちにひっぱりだこで手を取りあいするほど子 どもたちは元気いっぱいで接してくれました。その喜ぶ子どもたちの笑顔は私のインドでの宝物です。

これからは一日一日を大切にし、音楽の道をめざすという自分の夢にむかって今回インドで教えていただいた感謝の気持ちを 忘れないで努力したいと思います。

4

つぼさか壷心会 ------

A I V だ よ り

男子卒業生のための職業訓練 ~コンピュータコースの開設~



授業のようす 高学年になるほど生徒数が減っていく

2013年より始めた職業訓練コースも「裁縫コース」「美容コース」と増え、修了生も出てきました。

一方で対象者が女性に限られていたため、男子卒業生にも職業訓練 してほしいという要望がありました。当初は大工や靴職人などのコー スも検討されていたのですが、今後の将来性を見込み「コンピュータ コース」を作ることにしました。

ロパ・ムドラ学校でも授業でコンピュータを扱う事はありますが、 1 台しかないために自分で触れて学ぶ、という事ができません。

一方でインドはまだ電気通信等のインフラが整っていませんが、 2020 年中には全ての地域で電気が使えるようになる予定です。そ して、今後インターネット等コンピュータを使った市場は増えていく と予想されています。

その中で、今後は職業訓練としてインターネットへのアクセスや メールの仕方、文書作成を学んでいく予定です。

インターネットで最新の情報を得ることが出来るようになると、作った農産物を適正な市場価格で販売できるようになります。またアグラは海外からの旅行客が多い場所ですので、メールのやり取り等ができれば仕事を得やすくなります。それ以外にもインターネットを使った教育などを受けることが可能になります。

最終的には、学校の授業としてすべての生徒が扱えるようになることが目標ですが、まずは今年度中に「コンピュータコース」として開始する予定です。



50周年コンサートでの男子生徒



理事より学校の現状を説明

施設だより

業務改善プレゼンテーションを行いました



10月と12月の施設長会議のあと、各施設の職員による業務改善の発表会が行われました。

つぼさか壷心会

10月の発表では各施設の問題点に焦点が当たっていたため、「ご利用者の声をもっと聴いた方がいいのではないか」、「改善が行われたらどんな効果があるのか」をもう一度練り直す事になりました。そして、12月再度発表が行われ平成27年度は4つの取り組みが行われることになりました。今回のプレゼンテーションによって、各施設の職員それぞれが「自分の働く施設をよりよくしていくにはどうしたらいいか」を考えるきっかけとなりました。

各園からよく吟味された発表が出てきたと思います。 これらの実施のために、ご支援ご協力頂きますようよろしくお願いします。

五色園 タブレット型端末導入による業務効率改善化

五色園では、入所当時は自立されていたご利用者も高齢に 伴い認知症や筋力の低下が表れ、介護の必要な方が増えてい ます。また多様化するニーズの対応と、日々変化するご利用 者の状態に対応していかなくてはいけません。ご利用者の家 族、医療機関や行政との関わる上でも、情報を把握しておく ことが必要不可欠です。

現在ご利用者の記録については各支援員が指定の様式 (ペーパー)にて記録を行っています。しかし、現状では支 援員全員での細かい対応の統一ができにくかったり、記録を 書くことだけで終わってしまい記録から業務の見直し、改善 点を引き出しにくいという問題点がありました。

そこで、今回タブレット型端末を導入してはどうかという 事になりました。介護ソフトを体験したことがありませんで したが、今回体験してただ単に記録で留まることなく、表や グラフで表すこともでき具体的な数字も把握できることが分 かりました。また統計をとることにより、日々の業務の見直 し、改善点が見えてくると感じました。

このような結果からタブレット型端末を導入することによ

り、ご利用者の状態を早期に把握した上での対応ができると考えられます。また統計を分析することにより、ご利用者の健康状態を検討することができるので、充実した生活を送れるようより一層支援できることが期待できます。そして記録時間の短縮ができるため、その分ご利用者の相談業務や、介護の必要な方へきめ細かいサービスが提供できると考えられます。



(五色園 課長 新田 良·主任 木下祥宏)

施設だより

慈母園 テラスの有効活用について



慈母園は食堂と 1 階談話室の施設改良を提案しました。慈母園は昭和59年3 月の建設以来、30年が経過しています。建物設備の老朽化と共にご利用者の高齢化、虚弱化が進み、今年からは特定施設としての施設運営が求められています。しかし、現在の設備では十分な支援を行いにくい現状にあります。

高齢化と共に車イスを使用される方が多くなり、テーブル間の間隔が狭くなっています。ご自分の席への出入りさえも気を遣われる方もいます。また、認知症のご利用者もおられ、同じ空間で食事をして頂く事は環境やスペースの問題が大きくなっています。ご利用者に行ったアンケートでも食堂への意見が多く上がりました。「左右、後ろの方との間隔が狭くて困っている。」「食事の時は静かに食べ

たい。| という意見が特に多く上がりました。

慈母園のご利用者の中には身体的、精神的に虚弱な方も生活されています。今後、高齢化による身体機能の低下防止や認知症予防に努めていかなければなりません。

このような問題を解決する為、食堂のテラスの改良を行います。食堂との段差をなくし、冷暖房を完備することにより、食堂スペースの拡大を行います。ゆとりのある間隔の確保、静かな環境作りを目指します。そして、1 階談話室は色落ちした絨毯を新調し、取り外しが出来るものにします。弱視の方でも見えやすく、汚れても取り外しが出来るので、清潔を保ち使用して頂けます。体操やレクリエーションを行う場所として誰でも集まりやすい場所を提供します。

(支援員 安下 恵造)

明日香園 ご利用者の高齢化と入浴設備の更新

現在、明日香園は高齢化の課題を抱えています。平成26年12月1日現在、施設入所70名(男性37名、女性33名)の内訳は20歳から86歳までおられ、平均年齢は53.1歳となっており、全国平均45歳よりも高い状況です。また、知的障がいに加え、視覚障がいや肢体不自由など障害を合わせ持つご利用者も全体の40%を占め、移動の際車椅子を常時使用される方も年々増加してきました。入所期間も長く、ご利用者の平均入所期間は25.8年となっています。

施設設備としては、平成2年開設より24年が経過し随所に老朽化が 目立つようになりました。ご利用者が高齢化し身体機能が低下してきた 中、設備の高齢化対策として、手すり等の設置、バリアフリー化等の安



全対策が必要です。特に入浴設備は24年前と変わらないままですが、殆どのご利用者は入浴における介助が必要で、脱衣、洗身、入浴、着衣の流れの中で、転倒の危険性が極めて高く、ご利用者は床に座って体や頭を洗っています。浴槽へは手すりが無く、浴槽の縁を持ちながらまたがなければなりません。介助する側の負担を軽減するためにも、キャスター付シャワーチェアの利用や浴槽手すりの設置が必要です。またご利用者の使いやすいカランへの交換や、近くにタオルが掛けられる棚の設置等洗い場周りの整備を含めて、ご利用者にも職員にもより安全で快適な入浴が行えるよう改善をしていきます。

(課長 大久保学)

光明園 新しいベッドの購入



新しいベッドを体験

ベッドの老朽化による光明園の現状の問題点ですが、現在の光明園のベッドは高さや角度が変更できないものがほとんどであり、病気のためにベッドの上で食事を摂って頂く方が、適正な姿勢を保つことが困難な状況です。

逆流性の食道炎があるご利用者などは食事後、姿勢を保つためにクッション等による代用品に頼っていますし、車椅子からベッドへ移られる際も、ベッドの高さを変えられないために余計な力がご利用者に加わってしまっています。そのような理由を踏まえ、新しいベッドを導入することでご利用者の身体的な負担を軽減し、心地よく過ごして頂くことはもちろん、最新の機能を使うことでより安全で快適に過ごして頂けることと思います。

また、問題になっているのはご利用者の現状だけではなく、介護を行う上で腰痛に悩まされている職員も多くいます。ベッド の高さや角度を容易に変えることができれば、職員にとっても業務がしやすくなります。

ベッドというのは、ご利用者が生活される中で基本となる空間になりますし、寝心地の良い快適なベッドを提供できたらと思います。

現在光明園で使用しているベッドは、長年大切に使ってきた物です。新しく導入を予定しているベッドも、これからの光明園の礎となるように大切に使わせて頂こうと思います。 (介護職員 山岸 勇斗)

じがんふくしききん

壷阪寺慈眼福祉基金の 奨学生が卒業挨拶に 来られました

壷阪寺では平成 23 年より関西学院大学において福祉を学ぶ学生に奨学金支援を行ってきました。先日、奨学生として優秀な成績を修められた成田千恵(なりたちえ)さんが壷阪寺に挨拶に来られました。

成田さんは看護学校時代に終末期の患者と接したことをきっかけに大学に入りました。学生時代には壷阪寺がインドで支援をしていることを知り、インドボランティアツアーに参加したり、日本の貧困問題を学ぶために釜ヶ崎地区を見学するなど積極的に学ばれました。卒業論文は終末期の患者の食事について研究され、優秀論文として推薦されたそうです。今後は企業に就職されるとのことで、今後の活躍に期待しています。

壷阪寺慈眼福祉基金は今年でいったん休止予 定ですが、今後も福祉を学ぶ学生らを支援出来 たらと考えています。

東日本大震災募金のお礼と 外貨募金のご報告

東日本大震災から 4 年が経ちましたが、被災地域では仮設住 宅等での生活を余儀なくされている方がたくさんいます。

そこで寺境内と光明園、慈母園、第二慈母園を中心に募金活動を行いました。結果 48,633 円のご浄財を頂きました。ご浄財はかつて宮城県東松島市への支援をしていた縁から、宮城県県内で震災孤児となった子どもたちへの寄付とすることとしました。ご協力ありがとうございました。

また、壷阪寺には海外からの参拝客もたくさんいらっしゃいます。そのため、賽銭箱には外貨コインや古銭が入っていることがあります。これらは私たちでは換金することが出来ないため、以下の2団体に寄付することとしました。(取扱いの関係から2団体に寄付しました)

- 1)日本ユニセフ協会奈良県支部⇒外貨コインと外貨貨幣 (各国へ送付され、その後各支援に使われるとのことでした)
- 2)日本キリスト教海外医療協力会⇒外貨コインの一部と古銭 (日本国内で換金後アジア・アフリカでの保健医療協力に使われるとのことでした) ありがとうございました。

7

施設だより

平成 26 年 11 月末、奈良県社協福祉大会会長表彰並びに知事表彰が行われました。これは、社会福祉の分野において長年 功績を残した方に対して表彰されるものです。今年は、当法人から8名の方が表彰されました。表彰された方を一部紹介します。 また、今回は第二慈母園の嶋岡由香主任支援員にスポットを当て、普段どのような働き方をされているのかを伺いました。

慈母園



新子康文副施設長→大変うれしく感じております。これを糧に慈母園を更に盛り上げ良い環境を提供できるよう引き続き精進してまいります!



上平静代看護師→表彰して頂き、ありがとうございます。とても励みになります。これからも頑張って参りますので、よろしくお願いします。

明日香園



前西 朋支援員→あっという間の10 年でした。これからも頑張ります。



小栗ゆかり支援員→♪十年中を思い 出してごらんあんなことこんなこと あったでしょ♪ご利用者さんいつも ありがとうございました。

特別養護老人ホーム第二慈母園

◎インタビュアー

主任 嶋岡由香

訪問介護事業所第二慈母園 主任 薮ノ内祐佳

①働き始めた頃と現在の仕事に対する考え方の違いは?

「介護」という仕事について何の知識や技術もなく、お年寄りとの関わりも祖母との関りくらいで何もかもが初めてでした。働き始めた頃はご利用者の方々や周囲の先輩方に迷惑をかけないようにということだけだったように思います。与えられたこと、決まったことを行うことが仕事でした。今もそれは変わってはいないと思いますが、それだけではなく、自分から色々なことに興味を持ち、消化するだけではなく、作っていくことも大切な仕事だと思っています。

②普段の仕事で心掛けている事は?

「忘れないようにすること」

毎日、色々な出来事があり時間の流れが早く、ご利用者に頼まれたことなどちょっとしたことをすぐに忘れてしまう…。仕事にまだ慣れていなかった頃に、認知症のご利用者をお部屋にお連れし、何か頼まれごとをしたことがありました。その頼まれごとをすっかり忘れ、だいぶ時間がたってからその方のところに行った時に、その方はずっと私を待っておられたようで「ぼけてると思って私のこと忘れた」とえらく怒られたという経験があり、今でもその時のその方の表情をしっかりと覚えています。

私達職員は忙しく、時間があっという間に流れている状態があるけれど、ご利用者は待っている時間が長く、ゆっくりと時間が流れている。待って頂く時間はあるかもしれないけれど「忘れない」ということを心掛けて日々仕事をしたいと思い、メモをすぐとるようにしたり、帰った時に今日あったことや明日しようと思うことを頭の中で整理し、書くようにしています。

長い月日の中で、たくさんのご利用者と関わらせて頂き、記憶が薄れていくことも多々あるので、記憶したものを時々読み返すことで色々な出来事や出会いを思い出すこともできます。忘れないようにと心がけてはいますが、やっぱり抜けてしまうことが多く、いつも課題ではありますが…。

③やりがいを感じる事は?

ご利用者の笑顔だったり、喜んで下さる様子だったりが嬉しく、また頑張ろうと思う力になっているのは仕事を始めた頃からずっと変わらず感じることです。それがやっぱり一番のやりがいになっていると思います。

もともと人と話をすることが苦手で、人見知りだったので人相手の仕事が出来ると

は考えていなかったので、いつまで続けることが出来るだろうと思いながらの毎日でした。それが今まで続いているのは、ご利用者の言葉や笑顔、他の職員の方々の励ましなどがあったからだと思っています。自分一人で出来る仕事ではないので、他の方と協力し合い、色々なことを越えることが出来たときなど日々のやりがいを感じながら仕事をすることが出来ています。

④今後やってみたい事は?

今、「これをやってみたい」と思うことがはっきりとは思い浮かびません。 少し異なる角度から、今の仕事につながるようなことを勉強してみたいな あと思っていますが、漠然としたものでしかない状態です。

⑤今後の抱負は?

振り返ってみると、仕事を始めてから驚くほどに長い時間が過ぎていました。仕事を始めた頃に見ていた先輩方に、今の自分を重ねるとまだまだ足りないものがたくさんあるように感じています。重ねた歳月ではなく、中身が大切なんだと改めて感じています。

この機会をきっかけに、10年前や5年前と、以前に考えていた「今後」を 読み返してみましたが、達成できていることは殆どありませんでした。考え るだけでなく、具体的に取り組んでいくことが、今後の自分に必要なことだ と思っています。大きな目標はまだ見えてはいないですが、一日一日を、今 目の前にあることを大切に一生懸命に取り組んでいきたいと思っていま す。

通り過ぎた時間を改めて振り返ることが殆どないので、自分なりに今まで頑張ってきたことや、まだまだ足りないところなどを考えることが出来ました。このような機会を頂きありがとうございました。これからも頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。



仕事中の嶋岡さん

隅田園長からのコメント

この度、長期勤続表彰を受けられた皆さん、 誠におめでとうございます。

長年務めるということは、大変すばらしい ことだと思います。

その期間が長ければ長いほど、また、転勤 等が多ければ多いほど楽しさや充実感も大き かったと思いますが、その反面、悩みや苦し みも比例していたのではないでしょうか。

皆さんが今まで仕事を続けてこられたのは、もちろん皆さんの頑張りがあったからこそですが、周りの家族、友人、同僚等、沢山の人達に支えられてきたからだと思います。

これからも、さらに仕事を続けるうえで、 人と人とのつながりを大切にしていただき、 益々活躍されますよう期待いたします。

第二慈母園 施設長 隅田憲孝

「第二慈母園 福祉車両を寄贈頂きました」



寄贈された車と隅田園長

平成27年2月16日、森田記念福祉財団様より福祉車両、 ダイハツタントを寄贈していただきました。

最新のスマートアシスト機能がついており、もしもの事故を 未然に防ぐ事ができ、また、後部座席は大型のスライド扉になっ ているため、乗降時にも姿勢を崩す事無く、安心して乗り降り ができます。

通院やショートステイの送迎等、幅広く活用することができるので、ご利用者の細やかな生活援助に役立てたいと思います。

9